

Draft 出張 memo  
IPCC-AR4 Second Scoping Meeting  
POTSDAM Germany, 1-4 September 2003

- 1 . 出席会議：IPCC 第 4 次報告書に関する第 2 回スコーピング会合
- 2 . 期間 : 2003 年 9 月 1 日(月)~ 9 月 4 日(木)
- 3 . 開催場所：ドイツ/ポツダム、Ostdeutsche Sparkassenakademie
- 4 . 出席者 : IPCC 議長 R. K. Pachauri 他、約 150 名  
日本からは、6 名出席(最終日の会合で議長が故森田氏<sup>1</sup>の活躍と IPCC への貢献を称え出席者全員で黙祷を捧げた)
  - 経済産業省 関成孝参事官
  - 環境省地球環境局 高橋康夫室長
  - 国環研/社会環境システム 原沢英夫室長
  - 地球フロンティア研究システム 松野太郎システム長
  - IPCC inventory program 平石尹彦共同議長
  - NSC 岡崎照夫その他、Prof. D. Victor、ECOFYS (蘭)、OECD 環境局、中国 7 名等
- 5 . 経緯・主旨など
  - ・ IPCC 第 4 次報告書( 2007 年完成予定 )の骨子案を作成するための IPCC が招待した専門家会合( + ビューローメンバー )。
  - ・ 3 つの作業部会( WG1 : 科学的根拠、WG2 : 影響と適応及び脆弱性、WG3 : 緩和措置 )に分かれ、第 1 回スコーピング会合( 4 月 )で作成された骨子案をベースに、7 つの横断的課題( 後述 )の取り扱いを議論し、骨子に反映させる作業を行った。
  - ・ 今回の骨子案は、第 21 回 IPCC パネル総会( 11 月 3 - 7 日、ウィーン )に提出され検討される。同総会で骨子を最終的に決定し、執筆者の人選作業に入る。執筆者の選定は来年春までに終了する予定。

## 6 . 今回の会合概括(WG3 を中心に)

### (1) 横断的課題の取り扱い方

横断的課題については、作業グループ間の連携を確保しつつそれぞれの作業グループ報告の中に取り込む方向での整理が行われた。

### (2) 個別横断的課題の取り扱い方

- ・ 不確実性とリスク
- ・ 地域問題-----WG 1 は地球規模での気象学的な括り、WG 2 は海岸線、島嶼、低地といった気候変化の影響するセクターの分析と、各大陸・極地等という切り口での分析、WG 3 は開発の度合いなどを尺度として地域の視点を考慮するというアプローチ。
- ・ 水
- ・ 主要な脆弱性
- ・ 緩和措置と適応の関係
- ・ 持続的成長-----WG 3 において本件を扱う独立の章を立てる。気候変動関連政策と持続可能な成長のための政策のシナジーやトレードオフを議論。
- ・ 技術-----ハードウェアとしての技術にとどまらず、ソフト・インフラを含めて技術を分析、産業技術とその開発・普及・技術移転に焦点を当てる。

### (3) WG3 の主要ポイント

- ・ マクロモデルによるアプローチとセクター別の積み上げで対策コストや潜在性が見通しなどが異なることが意識され（マクロアプローチではコストが低めにでる）その比較分析が明示的に盛り込まれた。
- ・ 経済インストラメントに留まらず産業界の自主行動計画を含むさまざまな緩和対策が分析の対象となっている。
- ・ 技術について焦点が当てられ、その潜在性、コスト、障害、技術開発、普及、移転の課題などが分析される。
- ・ 国内政策と国際的枠組みの関係（国際的な枠組みが国内政策に及ぼす影響など）がきちんと議論される。
- ・ 貿易やエネルギー安全保障など他の政策との関連も分析される。

---

<sup>1</sup> 9月4日に逝去された国環研の森田氏も招待(WG3S)されていた。

#### (4) WG3 中での議論など

- ・ 経団連国際戦略タスクにおいて、AR4-SCOPING に関する関係業界の意見を求め、簡単なメモ（セメント、自動車、鉄鋼）にして持参、現地で事前に参事官にお渡しして説明。当日、事前に事務局(WG3 の Dr. Lee MEYER, Head IPCC WG3 Technical Support Unit)に説明し、WG3 会合で説明するよう資料コピーを事務局で準備。
- 以下のような点を説明(別途資料)
  - 産業界の取組は、自らの省エネ(CO<sub>2</sub>削減)だけでなく、他部門に跨る活動で貢献している。鉄鋼業の事例で改善規模も含めて説明(ECO-COMPLEX やセメントの Industrial Cluster Partners)
  - Industry にも素材、組立などいくつかカテゴリーが分かれ一緒にはできない。
  - (交通流、移動欲求・需要などについては略。全体の議論の中で、Transport Transport and infrastructure という表題になったので OK と考えた)

#### 7 . IPCC における産業界の関与(産業技術に関するWS等)

- ・ IPCC 第二回スコーピング会合中に、IPCC-WG3 関係者で IPCC 作業への産業界の関与を深める方策について関係者<sup>2</sup>で打合せ。結果として、
  - 現状と将来の展望について正しい理解をすることが必要であり、そのためには産業界の知見をきちんと反映することが重要。
  - これは、結果として、より適切な政策を促すことにつながり、産業界の利益につながる。

ことを確認し、このことを産業界ハイレベルへの働きかけ、ハイレベル会合(IPCC-WBCSD 等)、産業技術に関する第4次報告書の執筆者の選定、及びデータ提供のネットワーク作りを念頭に、産業技術(技術の開発、

---

<sup>2</sup> WG3 共同議長、WG3 事務局長、McFarland (米デュポン)、レイモンド(米、DOE)、サタエ(米、加州大)、関(環境担当参事官)、岡崎(新日鉄)

普及、移転)に関するワークショップ開催等。

#### 8. 今後

- ・ 今次会合で議論された骨子案は、スコーピング会合参加者との間のフィードバックを経た上で、11月3-7日にウィーンで開催される第21回IPCC政府間パネルに提出し採択へ。パネル会合後直ちに執筆者のノミネーションに入り、推薦は年内。選定作業は2004年3-4月頃終了。
- ・ 上記項目7に関する対応検討など。

以上